

## 「思いつき」取り組む力が育つ

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の学校連携観戦が中止となりました。東京都教育委員会は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を、子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」(以下「本教育」という。)を全校で展開することとする。これにより、東京都の子ども・生徒の良いところを更に伸ばし、弱みを克服するための取組を確実に推進し、国際社会に貢献し、東京、そして日本の更なる発展の担い手となる人材を育成していくとともに、東京2020大会の経験を通じ、その後の人生の糧となるような掛け替えのないレガシーを子供たち一人一人の心と体に残していく。」ことを目指していました。教育者の我々も同様です。中止は、コロナ禍においては致し方のないことと理解していますが、体験の充実を進めていた教育者として、その後の人生の糧となるであろうこの絶好の機会を生かし尽くすことができなかったのは残念でなりません。

しかしながら、教師の意図的な指導があれば、実際の体験活動と同様の効果を期待できるのではないかと考え、9月4日に全学級でオリンピック・パラリンピック競技大会を、タブレット端末を活用して視聴することで、学校連携観戦の代替とすることといたしました。

各学級では、オリンピックの体操をはじめ、パラリンピックのボッチャ、車いす800m、車いすバドミントンなどを視聴いたしました。「すごいね!」などと歓喜する子、じっとだまって見ている子それぞれでしたが、まなざしは真剣だったと思います。教師が事前に調べ、どのような競技なのか説明する場面もたくさんありました。最後に、子どもには、視聴をとおして感じたことを文章化してもらいました。子どもたちが書いた文章は計画的に校内掲示していきます。

6年生には、オリンピック・パラリンピック学習ノートにこんなことを書いた子がいました。

- 「・負けても相手を責めないこと
- ・あきらめないこと

これらのことはとてもいいことだと思います。感動しました。

私は、10月に●●の全国大会があります。負けたとしても、オリンピックやパラリンピックの選手のように、あきらめず、相手を責めないようにします。そんなときは、自分の練習が足りなかったんだと思います。」

自分事として振り返る本校の最上級生。オリンピック・パラリンピック教育は、この6年生が1年生のときから始まっています。小学校6年間学んできたことが、この文章にはにじみ出ていると感じました。

